

科目概要

| 科目名 | 総合特別講義IX「地域円卓会議マネジメントの技法と実践」(前学期) |
|-------------|---|
| 授業内容 と方法 | <p>私たちが暮らす地域では、人口減少や高齢化に加え、課題が複雑・多様化しています。</p> <p>本科目では、こうした地域の社会課題に向き合うための対話の場である「沖縄式地域円卓会議」を題材に、対話の場づくりと会議運営をマネジメントできる人材を育成します。</p> <p>沖縄式地域円卓会議は、地域で実際に「困り事」に直面している人が最初の声を上げ、その声を出発点に、多様な参加者が統計などの客観的データも踏まえながら事実を共有することを大切にする場です。</p> <p>成功事例の紹介から入るのではなく、まず現状を直視し、「食べられるサイズ」の具体的なテーマに絞って議論することを特徴としています。</p> <p>授業では、地域の「困り事」を、1対1ではなく、3者以上のステークホルダーで対話する手法を学びます。事実・視点・評価・事例が交わることで、「困り事」が整理され、「社会課題」として立ち上がっていくプロセスについてケーススタディを通じて体験します。また、テーマ設定や参加者（キャスティング）の決め方、司会者や記録者（ファシリテーショングラフィック）による会議運営のポイントも学びます。</p> <p>また、司会者は対話を通じて参加者の意識を「他人事」から「自分事」へと変えていく方法を、記録者は発言を構造化し、今後の課題解決の基礎となる記録を残す方法を実践的に身につけます。</p> <p>さらに、実際の地域円卓会議の現場見学・運営補助を行い、その経験を踏まえて、自分たちで円卓会議を企画するシミュレーション・ワークショップに取り組みます。</p> <p>授業は、学生と社会人がグループでディスカッションやワークを行うアクティブラーニングを基本とします。</p> |
| 授業計画 | <p>□Zoomを用いたオンライン授業を基本に、現場体験授業（対面）を加えたハイブリッド型授業です。 □授業のコミュニケーションツールとして「Slack」を用います。</p> <p>① 4月19日（日）【第3時限～第5時限】 第1回：ガイダンス（シラバスの解説、授業の方法、日程と評価の基準の説明） 第2回：地域円卓会議について、地域円卓会議の再現 第3回：地域円卓会議ができるまで -1. テーマ決め-</p> <p>② 5月16日（土）【第3時限～第5時限】 第4回：地域円卓会議ができるまで -2. キャスティング- 第5回：地域円卓会議の司会と進行 第6回：地域円卓会議活用者のインタビュー</p> <p>③ 6月13日（土）【第3時限～第5時限】 第7回：地域円卓会議の検討（グループワーク）-① 第8回：地域円卓会議の検討（グループワーク）-② 第9回：地域円卓会議の検討（グループワーク）-③</p> <p>④ 6月27日（土）【第3時限～第5時限】※現場体験型授業（対面授業） 第10回：地域円卓会議 -現場見学と運営体験-① 第11回：地域円卓会議 -現場見学と運営体験-② 第12回：地域円卓会議の振り返り</p> <p>⑤ 7月25日（土）【第3時限～第5時限】 第13回：地域円卓会議のファシリテーショングラフィック-① 第14回：地域円卓会議のファシリテーショングラフィック-② 第15回：地域円卓会議及び授業全体の振り返り</p> |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究共創機構が取り組む社会人向け科目履修プログラムとして、自治体、NPO 法人や企業等の社会人に本プログラムを提供します。 ・本科目は「初級地域公共政策士」資格取得のための履修証明プログラムの必修科目です。 |